

第2回南砺市立学校のあり方検討委員会会議録（要点記録）

1. 日時 令和4年11月24日（金） 午後7時 ～ 午後9時

2. 場所 南砺市役所 福光庁舎別館3階 大ホール

3. 出席委員 28名（欠席2名）

No.	役職	氏名	所属	備考
1	委員	松山 友之	学識経験者（富山国際大学子ども育成学部教授）	委員長
2	委員	齋藤 史朗	学識経験者（元富山県西部教育事務所長）	副委員長
3	委員	税光 詩子	学識経験者（元南砺市教育委員）	
4	委員	棚田 賢也	小学校長会（福光中部小学校長）	
5	委員	齊藤 哲也	中学校長会（福野中学校長）	
6	委員	谷戸 仁美	保育士会（井波にじいろ保育園長）	
7	委員	唐嶋 田鶴子	幼稚園代表（福野青葉幼稚園長）	
8	委員	工藤 悠市	南砺市PTA連絡協議会代表	
9	委員	川田 将晴	城端地域PTA代表	欠席
10	委員	藤井 耕四郎	平地域PTA代表	
11	委員	酒井 堅信	上平地域PTA代表	
12	委員	笠原 一忠	利賀地域PTA代表	
13	委員	山崎 賢治	井波地域PTA代表	
14	委員	金道 真一	井口地域PTA代表	
15	委員	橋爪 央樹	福野地域PTA代表	
16	委員	山田 剛	福光地域PTA代表	
17	委員	松本 久介	城端地域づくり協議会代表	
18	委員	井渕 信雄	平地域づくり協議会代表	
19	委員	鉢蟬 圭伸	上平地域づくり協議会代表	
20	委員	野原 哲二	利賀地域づくり協議会代表	
21	委員	富田 利通	井波地域づくり協議会代表	
22	委員	東 康紀	井口地域づくり協議会代表	
23	委員	伊豆 多都子	福野地域づくり協議会代表	欠席
24	委員	水口 幹夫	福光地域づくり協議会代表	
25	委員	大河原 晴子	公募委員	
26	委員	近川 利行	公募委員	

27	委員	江川 由貴子	公募委員	
28	委員	石崎 里果	公募委員	
29	委員	井上 明世	公募委員	
30	委員	堀 勉	公募委員	

**【事務局員】**

教 育 長	松本 謙一	教 育 部 長	村上 紀道
教 育 総 務 課 長	氏家 智伸	教 育 総 務 課 副 参 事	吉尾 徹
教 育 総 務 課 主 幹	金谷 諭	教 育 総 務 課 主 幹 (学務係長)	山田 浩司

**【傍聴人数】** 0人

**【協議事項等】**

**1. 委員長あいさつ**

**2. 報告事項**

- (1) 第1回検討委員会での主な質問・意見等について 資料1
- (2) 中学校部活動の地域移行・拠点校化に関する報告について 資料2
- (3) 平・上平地域における将来の学校説明会について 資料3

**3. 協議事項**

- (1) 学校の適正規模等について 資料4
- (2) 今後の地域別児童生徒数と学校設置について 資料5

— 協議事項についてのグループワーク —

**4. 次回協議会の日程 第3回検討委員会 令和5年1月20日(金)**

**5. 副委員長あいさつ**

**【会議の概要】**

○開会

**1 委員長あいさつ**

(委員長)

本委員会の性格は、南砺市の子供たちにとってより良い提言をまとめることにある。忌憚のないご意見をいただきたい。

地域ごとの事情もお聞きしてこれからの議論の基礎をつくりたい。

**2 報告事項**

事務局から、(1) から (3) までについて資料に基づき報告

(1) 第1回検討委員会での主な質問・意見等について

資料1

- ・委員A この委員会は、8中学校区に義務教育学校を作るという前回の委員会の方向性も含めて、見直すということで進めてよろしいか。
- ・事務局 お見込みのとおり。
- ・委員B 前回の検討委員会での想定に対して、児童生徒数はどれだけの差があるのか。
- ・事務局 前回の検討委員会では、年間出生数約300人を想定していた。実際には約220人と想定を大幅に下回ってきている。

(2) 中学校部活動の地域移行・拠点校化に関する報告について

資料2

意見なし

(3) 平・上平地域における将来の学校説明会について

資料3

- ・委員C 義務教育学校化については、今後どのような形で進めていくのか。
- ・事務局 地域との合意を急ぐつもりはなく、地域が前向きに検討をしたいということになったら、設置協議会を立ち上げるところから進めていきたい。
- ・委員D 義務教育学校になったら、教員は何人確保できるのか。学校を改修するという予定だが、まだお金をかけるつもりなのか。先生方の働き方改革という観点から、学校間の移動が負担になるのでは。
- ・事務局 教員の人数は、現在の上平小学校に教諭10人、平中学校に教諭8人に対し、2キャンパスの場合、上平キャンパスに教諭8人、平キャンパスに教諭10人となる。プラス校長が1人減る分どちらかに教諭が1人追加できる。  
予定している工事は、現上平小学校の一部を保育園へ転用するための工事にかかるものであり、大規模な改修は予定していない。  
教員の学校間の移動を含む負担については、学校で工夫することで解消できると考えている。
- ・委員E 他の地域でも、保育園及び小学校の連携の構想があるのか。
- ・事務局 南砺市の12ヶ年一貫教育を進めることで、それぞれの校区で、幼保小中連携を考えているが、地域により形に違いは出ると考える。2キャンパス制度は、平・上平地域の特徴だと考えている。
- ・委員F 南砺つばき学舎の設立の時に、名称に「南砺」を入れたいと教育委員会から強く要請された。(仮称)南砺市立五箇山学舎もそうなのか。
- ・事務局 現時点では何も決まっていない。南砺つばき学舎の経緯も含めて、今後検討していくことになる。
- ・委員C 現在の上平保育園は、今後、どのような形になるのか。
- ・事務局 公共施設再編のルールも含めて、検討していく。

### 3. 協議事項

(1) 学校の適正規模等について

資料4

(2) 今後の地域別児童生徒数と学校設置について

資料5

事務局から一括して説明した後、地域毎に分かれて、委員同士の意見交換を約30分間実施した。

### 4. 次回協議会の日程

次回の第3回南砺市立学校のあり方検討委員会は、令和5年1月20日（金）に開催する。第2回の地域毎の意見交換を踏まえて、委員から事前に意見を提出していただき、協議の資料とする。

### 5. 閉会 副委員長あいさつ

(副委員長)

今回、全体像がつかめた。

南砺市全体の学校のあり方については、全体で話し合うことも必要かと思う。

以上